

児童発達支援 事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和6年3月31日

事業所名：三島市児童発達支援事業所

区分	チェック項目	評価		工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
		はい	いいえ		
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			
	2 職員配置数は適切であるか	○		利用人数が少ない日もあるため、職員数が多くなりすぎないように気をつけている。	今年度より、日中一時支援事業の開始にともない、職員が増員された。より丁寧な療育ができるようになったと思う。
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○			教室が2階で園庭も遠いため年少の最初のころは大変だった。同じ2階にある遊戯室を利用して移動の負担を減らすことができた。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○			
業務改善	5 業務改善を進めるためのP D C Aサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			毎日勤務の職員ばかりでないため、年度当初に、事業所の業務内容について等、全職員対象に詳しく説明していきます。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		第三者による外部評価は行っていないが、年度当初に、事業所の業務内容について等、全職員対象に詳しく説明していきます。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			今年度も医療関係者（医師や作業療法士等）や大学教授を講師にたくさん研修を受けさせて頂いた。日頃の保育に活かしていきたい。
適切な支	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○			
	11 子どもの適応行動の状況を計るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			乳幼児精神発達診断法（津守式発達検査）を使用している。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○			
14 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○				

区分	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	改善内容又は改善目標
援の提供	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成しているか	○			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			担任間で情報を共有し、全員が把握できるように打合せや伝達することを意識している。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			共有しているか、時間の中で共有しきれないこともあります、共有の難しさを感じる場面もある。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○			
	21 障害児相談支援事業のサービス担当者会議に子どもの状況に精通した最もふさわしいものが参加しているか	○			各機関と1対1で行っている。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○			
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか				
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか				
関係機関や保護者との連携	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○			
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○			
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		沼津市児童発達センター「みゆき」や長泉児童発達支援センター「スミダス」と連携している。	
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○			前年度に比べて増えてきたと思う。水消火訓練や園コンサートに参加させて頂いた。より増えていくと良いと思う。今年度交流が増え、にこバルの子ども達にも良い影響が出ていると思う。
	29 (自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○			
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			日頃伝えるには難しい場面も多いため、面談時などに話している。共通理解まで話せる時間までもないこともある。

区分	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	改善内容又は改善目標
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っているか	○			保護者にも具体的なかかわり方を伝え共に行えるようにしていった。
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○			
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会などを開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			えがおのなかま会の中で話し合いができるようにもう少し設定したい。 参観会の時に懇談会を行った。 えがおのなかま会の開催を行っている。
	36 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			今年度は幼稚園や保育園との交流時や、行事の際にクラスに写真を掲示して保護者に好評だった。
	38 個人情報の取扱いに十分注意しているか	○			十分注意していたが、確認することの大切さを実感している。 健康チェック表を入れ間違えてしまった。 注意しているが、ミスしてしまうこともあった。 Wチェックし、再発防止に努める。
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○		
	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○			子どもの様子や状況に合わせて検討していくたい。
非常時などの対応	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	○			てんかんのお子さんはいない。
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			保護者からの聞き取りだけなので確認するようにする。 アレルギー確認はしている。園で食べるお菓子などの成分表は事前に貼り出し確認してもらう。
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			

区分	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	改善内容又は改善目標
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			職員によるセルフチェックは行っている。
	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○			記載については、令和5年度は行っていない。検討したほうがよいか。事前に説明はしている。